

## 受賞者からのコメント

### ● 授業を行うにあたって工夫していること

私は看護技術に関わる講義および演習を担当しており、主な役割として1・2年次の演習の準備から後始末、実技の指導など日々の学生と直接関わる機会が多い。

今回は、そのような直接的な指導や学生との関わりの多さからこのような評価につながったのではないかと考えている。

私が授業を行うにあたって工夫していることは特別なことではないが、看護技術に関する指導を行う際には、方法の根拠やその意味を学生が理解できるよう、既習の知識を想起させ具体的な例を示しながら進めていることである。さらに、学生が体験したことのない想像することが困難である内容に関しては、実際の臨床場面での事例等を活用しイメージ化できるように教材を使用することによって理解を促している。

技術の習得を促すためには、原則や根拠の理解と反復練習が必要になると考える。具体的な行動を通してそれらを伝えられるようデモンストレーションの方法を工夫したり、授業時間以外にも実技指導を行い、学生が継続的に学習できる環境を提供するよう努めている。

### ● 学生への要望・アドバイス等

看護は技術を用いて対象者への援助を実践することから、学生のうちに自分の技術を磨いておく必要があります。私の臨床での実践経験からも、看護技術の大切さを感じます。そして看護技術を身につけるためには、学習したことを繰り返し練習することが重要です。是非、自分の時間を使って自己演習を行って下さい。指導が必要な場合には声を掛けて下さい。じっくりと指導いたします。

また、学生の皆さんには様々なことに興味を持ち、仲間と沢山ディスカッションを行って欲しいと思います。看護は人間の健康生活に関わる職業であり、臨床現場は多くの人と出会い、ふれ合う場です。学生時代に様々な場面や人々に会う中で、相手を理解しようとする気持ち、思いやる心、そして理解力や思考力を育てていって下さい。

私も皆さんの看護に対する学習意欲を育てられる授業を行えるよう、今後も努力していきたいと思っています。